

学校番号	5	学校名	長野県中野立志館高等学校
------	---	-----	--------------

平成29年度 長野県中野立志館高等学校 全日制 学校評価 年間評価

1 学校教育目標・重点目標

学校教育目標	重点目標(中・長期的目標)
豊かな心と広い視野、創造的な姿勢を持ち、主体的に社会貢献できる、心身ともにたくましい人間を育てるために、以下の3点を目指した教育を推進する。 1 自らの生き方を考えるとともに、思いやりの心と社会規範意識を持ち、時代の変化に対応できる柔軟かつ能動的で個性豊かな人間の醸成 2 自分の興味や適性を認識し、将来の主体的な職業選択の実現に向けて着実に努力していく能力・学力を持つ生徒の育成 3 地域の自然や歴史・伝統を理解し、地域の産業や文化の発展に寄与するとともに、広く世界に目を向け、社会の発展に創造的に貢献できる生徒の育成	(1) 総合学科として、地域の産業・文化の振興と環境保全に貢献する人材教育をするために、積極的に地域との連携を図り、生徒一人ひとりの意欲と自尊心の向上を目指す。 (2) キャリア教育を充実させ、生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てる教育活動を計画的に行い、進路実現を目指す。 (3) 安心で安全な学校(環境)づくり体制を構築し、生徒会活動・クラブ活動・課外活動を通じて、生徒の多様性・独自性を尊重し、主体的に生きる力を育むとともに、豊かな情操の形成、社会規範意識の育成および体力の向上を図る。
	今年度の重点目標
	① 基本的な生活習慣を向上させ、安全安心な環境を維持し、いじめや体罰を許さない人権教育を推進する。 ② 信州の総合学科高校としてのあり方を再検討し、地域の連携を充実させたキャリア教育体制を更に強化する。 ③ 主体的・探求的な学びを推進するため、学力向上を目指した授業改善と生徒の課外活動への支援をする。

[成果と課題:達成度]		[改善策・向上策]	
総合評価	① 基本的な生活習慣の向上に向けた取組では、学校全体が落ち着いた雰囲気となり、取組の成果が見られる。身だしなみについては更なる取り組みが必要である。 ② 地域連携の面では、中野市、長野大学との連携を通して地域に根ざした教育実践ができた。 ③ 生徒の学習意欲の向上のために、「主体的・対話的で深い学び」を目指して職員研修を実施し、「授業改善」に取り組んでいる。	① 現在の学校全体の落ち着いた雰囲気と安心・安全な環境をさらに向上することを目指して、生徒一人ひとりが目的意識を持って取り組めるよう、自覚を促す。 ② 地域の総合学科高校として、地域産業に資する人材育成や産業界との連携を進める。 ③ 学校教育の様々な変化に対して、本校のあり方を地域の方を含めて広く意見を聞く。	

2 評価項目・評価の観点

(「達成度」のA～Dは、「A 達成できた、B ほぼ達成できた、C 改善の余地がある、D 相当の改善を要す」を表す。)

対象	評価項目	評価の観点	重点	成果と課題	達成度	改善策・向上策
企画・推進	組織の連携	各部署と連携をとりながら、現状の課題、中長期的な課題、将来像の検討、危機管理対策について取り組むことができたか。	①②③	高校生のための学びの基礎診断、学級数など将来に向けての検討を進めることができた。また、次年度の重点目標・学校行事・LHRの実施時間等についても検討することができた。	B	学校教育が大きく変化する中で、学校全体が共通理解のもとで指導にあたることのできるよう、本校のランドデザイン、生徒育成方針、教育課程編成・実施方針、生徒受け入れ方針の検討および研修会等の機会を設ける。
教務	情報共有・業務の効率化	生徒の基本的な生活習慣の向上や安心安全な環境維持のための情報を、適切に職員・保護者に提供するシステムの改善・構築・維持管理ができたか。	①	絆ネットによる情報発信が、全家庭(保護者・生徒)へのメール配信となっていたが、各学年・クラスへの配信ができるようにシステムの変更を行うことができた。	B	絆ネットによる、担任や学年会からの配信を積極的に行ってもらい、全家庭に登録していただくようにしていく。
	地域との連携	業務の分担や手順を見直し、効率化を図ることができたか。	①	教務支援システムの機器更新にあたり、全ての入力を個人PCで行えるようにシステム変更し、業務の効率化を図ることができた。	B	出欠・成績等の入力の変延や誤記がないように個人PCの操作方法等の周知を図る。
キャリア教育	学力の向上	地域や中学生に、立志館だよりやホームページ、学校開放を通じて、総合学科高校としての本校の教育活動や魅力を伝えることができたか。	②③	ホームページの内容の整理やポイントの拡大等により見やすいホームページに変更することができた。また、中学生向け学校見学会の参加人数を昨年度より大幅に増やすことができた。	B	立志館だよりやホームページの内容をより充実させ、本校の活動や魅力を発信していく。
	指導体制の充実	生徒一人ひとりが基礎学力を定着できるように、学力向上を目指した授業改善をすることができたか。	③	基礎学力の向上を目指しアクティブラーニングの研修会を行い、授業改善に役立てることができた。	B	新学習指導要領に伴う授業内容の改善を検討していく。
	地域の連携を充実させたキャリア教育の推進	進学希望者の進路実現のため、放課後の学力補充や長期休業を活用して補習や学習合宿が充実して実施できたか。	③	進学希望者の進路実現のため、補習、模試、個別指導を行い学力を向上させた。また、長期休業の総合学科高校進路研究会では2・3年生で30名参加し、有意義であった。	B	係と学年の連携を密にし進学希望者への進路実現を援助していく。
生徒指導	生徒支援の充実	生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け「産業社会と人間」をはじめとし、インターンシップや地域との連携事業の中でキャリア教育が十分に行うことができたか。	②③	就業体験や地域との連携事業に参加する中で、社会的自立に向けた経験を積ませることができた。	B	さらに、地域との連携を深め、充実したキャリア教育を目指していく。
		全職員が一丸となって、作文・小論文指導や面接対策指導を行い、生徒一人ひとりに応じた取り組みができたか。	②	職員全員での面接や作文指導を行う態勢をつくり、生徒の進路実現に向けた支援を行うことができた。また、外部講師による面接指導も実施することができた。	B	職員の指導体制をさらに充実させ、進路実現へのサポートを行っていく。
		身だしなみ、挨拶の励行、時間厳守を重点課題とし、基本的な生活習慣と携帯マナー向上への意識の確立ができたか。	①	身だしなみ指導件数は前年度と比較して半数に減少したが、携帯指導件数は増加傾向となった。	B	頭髪等の身だしなみ、挨拶・丁寧な言葉遣い、ケータイ・スマホの預かり指導等を引き続き徹底していく。
生徒会	生徒会活動の支援	人権を尊重する態度、社会規範意識を向上させることができたか。	①	挨拶やマナー教育等の指導の強化を図ることができた。	B	学校内外のマナーに関する諸問題について、今後も「速報」を出してSHRで注意を喚起していく。
		生徒・保護者・担任等からのカウンセリング希望に対して適切かつ迅速に対応できたか。	①	教員間の情報共有を図り、生徒や保護者、担任からの要望に対応することができた。	B	「いじめアンケート」などをもとに、指導部や支援チームとの情報共有と共通理解を図り、速やかに対処していく。
	クラブ活動の充実	生徒の自主的活動の企画・運営を援助し、生徒が主体的に活動できるよう支援できたか。また、生徒会最大の行事である文化祭について、10年の節目を迎え更なる改善ができたか。	②	自分達でなく来校者をもてなすという発想転換を生徒自ら考え、模擬店の配置移動、クラス展示の見直しを行うことができた。来校者が増加し一定の成果が見られた。	A	今年度の成果を踏まえ、方向性を踏襲しながら、連絡の伝達方法、展示会場、内容など、反省として挙げられた点を改善していく。
図書・視聴覚	図書館・視聴覚の充実	ボランティア活動や地域行事へ自主的に参加できるよう支援できたか。	③	なかのバラまつりへのボランティアの参加を呼びかけ、本部役員や地域委員を中心に参加、支援することができた。	B	なかのバラまつりへの参加はもちろん、他の活動にも参加を呼びかけていく。
		クラブ活動への参加を促し、クラブ活動を通して心身の育成や充実した学校生活を送れるよう支援できたか。	①	新入生に対し、クラブ仮入部期間中に1つ以上のクラブを見学してもらうようにして、クラブ加入の意識を高めることができた。	B	クラブ説明会の充実など、更なるクラブへの加入意識を高める工夫をしていく。
保健・環境整備	健康で住みよい学校づくり	読書週間の内容を充実させることができたか。	②③	図書委員の生徒が中心となって企画・実施することができた。また、秋の読書週間を昨年度よりも前倒しで行ったが、行事が重なっており周知することが困難であった。	B	実施期間を再度検討していく。
		生徒が主体的に進路を選択するための資料を積極的に収集できたか。	②③	様々な選書ツールの中から本校生徒に見合った資料を収集することができた。	B	生徒のニーズにあった資料を更に収集していく。
同窓会・PTA	健康で住みよい学校づくり	学校全体の健康管理を進めることができたか。	①	学校全体の協力で身体測定・健康診断が円滑に実施することができた。また、熱中症の予防対策として熱中症指数計を導入したことで注意を促すことができたが、7月の気温上昇で体調を崩す生徒が増加した。	B	熱中症対策として、生徒の健康管理を含め注意喚起を促すとともに、生徒の「健康」に対する意識を高めるような取組を検討していく。
	資源のリサイクル化の推進	資源物のリサイクルを全員で進めることができたか。	①	生徒会活動、学級活動を通してゴミの分別、資源のリサイクル活動を推進してきた。充分とはいえないが資源リサイクルの意識は徐々に高まってきている。また、整備委員会の生徒の活動においては、生徒達のまとまりがよく、良い活動を行うことができた。	B	全体を見ながら清掃分担区の割り振りを検討していく。
教育課程・科目選択	同窓会の充実	生徒の学習・クラブ活動の支援を図り、同窓会事業等が充実できたか。	②	年間事業及び生徒への支援も滞りなく実施することができた。また、機械部等のクラブ活動の支援を行うことができた。	B	更に生徒・卒業生の活躍に対して支援をしていく。
	教職員と保護者の連携を深めるPTA活動の強化	教職員と保護者との関係を密にすることができるPTA活動を進めることができたか。	②	年度当初より総会等諸行事が立て込み、後手後手に回ってしまった。昨年と行事の内容を変えたことも一因ではあるが、保護者と教職員の関係を深める方策が今後の課題である。	B	PTAは教員と保護者代表の連携を図るいい機会であると考えていただき、積極的な参加を呼びかけていく。
教育課程・科目選択	科目選択に対する支援の充実	生徒の進路希望や興味・関心に応える科目選択指導に対して適切な支援ができたか。	②③	入学当初から「産業社会と人間」の授業の中で、将来の進路について考えさせ、適切な科目選択になるように指導することができた。また、個別ブースをつくり、個々の生徒に対応した指導を行うことができた。	A	更に個々の生徒に対応した指導を行っていく。
		進路に関連した選択科目を履修できる配置表(時間割)の作成ができたか。	②③	進路に関連した配置表(時間割)の作成はできたが、フリー選択科目に希望が集中してしまっ	B	出来る限り生徒の希望をかなえながら、フリー選択科目の配置を検討していく。